

理不尽とは断固たたかい、強固な組織を構築しよう！

第42回地本定期委員会開催！



2/16 田町交通ビル大ホール

2月16日、東京地本は第42回定期委員会を田町交通ビル大ホールにおいて開催し、会社による悪辣な不当労働行為を絶対に許さず、「19春闘勝利！」「3年連続の所定昇給額を算出基礎としないベアの実現！」そして、「矢継ぎ早に押し寄せる施策に真摯に向き合い、安全・健康・ゆとり・働きがいの持てる職場の構築」をめざし、組織の総力でたたかいをつくり出していくことを確認しました。

12名の委員から「19春闘は所定昇給額を算出基礎としないベアをめざしてたたかう」「会社の不当労働行為は、声を出せば一瞬は止まるが今もさまざまな場で利益誘導が行われている」「労働委員会は、労働組合の救済の場である」「団体交渉の会社の進め方に違和感がある」「ダイヤ改正で100名の人員削減がある」「エルダー制度は、通常転勤ではない。今の会社の進め方は、国鉄改革の否定でありエルダー制度の否定である。正常な運営を求める」など、職場からのたたかいの実践報告が出されました。また、本部臨時大会や定期中央委員会で行われた制裁審査設置や規約・諸規則改正について「宮澤前委員長の制裁は、理由に値する内容ではない。制裁解除と撤回を求める」「規約改正には無理がある。本部の見解を求める」など中央本部への質問や要請が出されました。中央本部からは「意見については持ち帰る」と「感想」をいただきました。

職場では、未だに不当労働行為がやむことがありません。一方で「変革2027」が出されて以降、時間軸が優先され全系統で矢継ぎ早に会社施策が進められています。組合員は、安全問題や会社施策などの業務課題に関する労働条件が最大の関心ごとであり、要求の実現度合だけではなく、施策に臨む労働組合の姿勢や構えを見ています。私たちが求めていることは「安全で安心して働ける職場」です。会社はこれまで地方で積み上げてきた労使慣行や議事録確認、議論経過を意識的に壊してきています。団体交渉で労働組合としての正当性を主張しても「本部・本社間の議事録どおりです」と議論を深めず、施策を押し進めています。また、歪んだ人事評価が作りだされ、「正義の文化」「信頼の文化」が欠けています。職場に公正・公平感が無ければ、安全文化が構築できません。

今後、第37回臨時大会で行われた「規約・諸規則の改正」については、組合民主主義を否定し、憲法第28条及び労働組合法に抵触していることから、次期大会まで一旦凍結と元に戻す準備に入ることを中央本部に要請していますが、真摯に対応していただけないのであれば、法的手続きを取ります。また、理由なき理由で1年もの間、組合員権停止という不利益を被っている宮澤前執行委員長をはじめとした14名の制裁解除を求めています。

東京地本は沖縄の姿勢に学び、「あったことは、無かったことにせず」屈すること無く、あきらめずに理不尽とは断固たたかいます。そして、職場を原点にした活動を強化し、組合員の声に基づいた運動で諸問題の改善をめざすために「組合員に寄り添い、温もりのある強固な組織」で組合員の利益を守り、JR東労組の運動と組織の再構築に向けて、全職場からたたかいを押し進めていきたいと思います。